



揖斐川町 防災 ガイドブック

保存版

もしものときに備えて！

もくじ

災害が起きる前にチェックしておこう！

地震に備えて

- ① 地震の知識 3
- ② 地震発生！そのときどうする？ 4
- ③ 災害の状況に応じて的確に避難 6
- ④ 緊急地震速報とは？ 7

火災に備えて

- ① 火災発生！そのときあなたは？ 8
- ② 避難のためのポイント 9

風水害に備えて

- ① 台風と集中豪雨 10
- ② 気象状況に注意し、早めの対応を 11
- ③ 土砂災害に気をつけよう 13

原子力災害に備えて

- ① 原子力災害から身を守る 14

自助・共助

- ① 日頃の備え 15
- ② わが家の安全チェック 16
- ③ 要配慮者を守るために 18
- ④ 非常時に役に立つもの 19



揖斐川町
Ibigawa Town

災害が起きる前にチェックしておこう！

！
警戒レベルと
とるべき行動

警戒レベルの数字が大きくなるほど、緊急度が高くなります。
どの警戒レベルで避難するか、準備や避難にかかる時間も考えておきましょう。
高齢者や妊産婦、乳幼児連れの方などは「警戒レベル3高齢者等避難」で
避難を開始してください。

	河川氾濫 1級河川などの 大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	住民が とるべき行動	行動を促す情報 (避難情報等)
警戒レベル 5 相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保
＜警戒レベル4までに 危険な場所から かならず避難！＞					
警戒レベル 4 相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	危険な場所から 全員避難	避難指示
警戒レベル 3 相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	避難に時間を要する人は 早めに避難、避難の準備など	高齢者等避難
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	避難行動を確認 (避難場所や避難ルート、 避難のタイミングなど)	氾濫注意報、大雨注意報、 土砂災害注意報
警戒レベル 1	早期注意情報			災害への心構えを 高める	早期注意情報

あなたの
スマホに

揖斐川町の情報が
まるっと届く！

揖斐川町の総合アプリ「いび情報ナビ」



いび情報ナビ

防災情報

暮らしの
情報・手引き

観光・娯楽

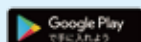
災害時
緊急情報は
最大音量で
通知！



Apple製品の場合



Android製品の場合



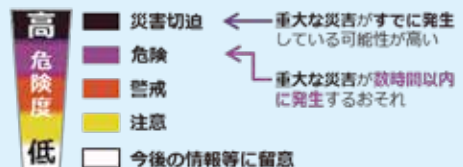
この雨大丈夫？
キキクル (危険度分布) で
チェック！

キキクル 検索

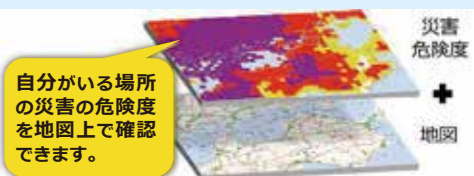


「キキクル」は、気象庁が提供する防災
情報サービスです。
大雨や洪水による災害の危険度を、地図
上で視覚的に知ることができます。

危険度を5段階に色分け



地図上にほぼリアルタイム表示



雨による災害の危険度が10分ごとに更新されます



※常に最新の情報を確認してください

警戒レベル4相当の「危険」(紫)
などへの危険度の高まりを通知す
るサービスを行っている事業者も
あります。



キキクル通知サービス

1 地震の知識

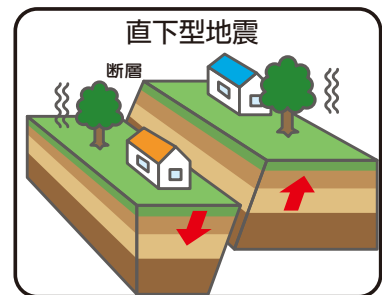
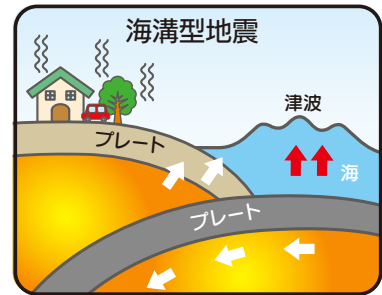
どうして地震は起きるのか？

地球は岩石で構成され、その内部は温度が高くなっているため、岩が溶けた状態で対流を起こしていると考えられています。

この対流によって地球の表面に岩盤（プレート）がつくられ、それが1年間に数センチずつ動くことで左右に広がっていると考えられています。

プレートが他のプレートの下にもぐり込んでいくとき、その部分で歪みのエネルギーが蓄積され、限界に達するとはね返ります。これが海溝型地震です。

また、プレート同士の押し合う力が活断層などの地殻の弱い部分で歪みを開放しようとして発生する地震が、特に都市の真下で起きるとき、それを一般に直下型地震といいます。



i マグニチュードと震度

マグニチュード …… 地震のエネルギーの大きさ

震 度 …… 地震の揺れの強さ

一般的にマグニチュードが大きくても、震源が遠い場合や深い場合は震度が小さく、逆にマグニチュードが小さくても、震源が近い場合や浅い場合は震度が大きくなります。



地震の震度とは？

(「気象庁震度階級関連解説表」を参考に作成)

震度
0

人は揺れを感じない。



震度
1

屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



震度
2

屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。



震度
3

屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。



震度
4

ほとんどの人が驚く。電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。



震度
5弱

大半の人が、恐怖を覚える。棚にある食器類や、本が落ちることがある。



震度
5強

物につかまらなさと歩くことが難しい。固定していない家具が倒れることがある。



震度
6弱

立っていることが困難になる。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。



震度
6強

はわないと動くことができない。飛ばされることもある。大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山林の崩壊が発生したりすることがある。



震度
7

耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。



2 地震発生！そのときどうする？

自分や家族の安全を守るためには、地震が発生しても、あわてずに行動できるかがポイントになります。いざというときにパニックにならないように、地震発生から3日間の標準的な行動パターンをしっかりと覚えておきましょう。

地震発生



最初の大きな揺れは約1分間

まずは落ち着いて、自分の身を守る
机の下などに隠れる。倒れてくる家具や、割れるおそれがある窓ガラスに注意する。外にいるときはかばんなどで頭を守る。



2～5分

火元・家族の安全を確認

揺れがおさまったら…

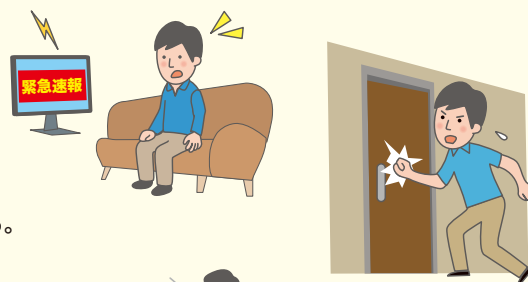
火元の確認・初期消火
窓やドアを開けて、逃げ道を確保
靴をはく
ガラスの破片などから足を守る。
出火防止
ガスの元栓を閉める。電気のブレーカーを切る。



5～10分

テレビなどで正しい情報を得る

家族の安全を確認
テレビなどで情報を確認
震度速報は地震後2分程度で発表される。
周囲の様子を確認
余震に注意
家屋の被害状況を点検
倒壊などのおそれがあれば、避難の準備をする。
非常持ち出し品の用意



10分～半日

災害の状況に応じて冷静に対応

近所の安全を確認
近所に声をかけ、お互いの安否を確認する。特に、高齢者や障がい者などの要配慮者のみの世帯には積極的に声をかける。
消火・救出活動
近所で消火や救出活動を協力して行う。自分たちの手に負えない場合は、消防署、警察署へ通報する。

家族と連絡
自宅を離れるときは、家族に行き先を伝えておく。
周囲に危険が迫っている場合は速やかに避難を
火災・土砂災害・建物倒壊など、災害の状況に応じて避難する。避難時は、ブロック塀や倒れかけた家屋などに注意する。原則として、避難に車は使わない。



半日～3日

自宅や地域の安全が確認できるまで警戒を
テレビ、ラジオ、インターネットなどで正確な情報を入手する。
生活必需品は備蓄でまかなう
災害発生から3日間は家庭での備蓄でしのぐ。
壊れた家には入らない
避難生活では、集団生活のルールを守る



屋内にいるときは

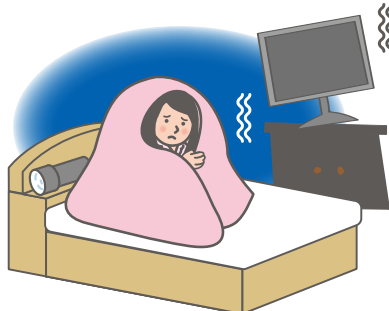
料理をしているとき

- 机の下などに隠れ、身の安全確保をする。やけどなどの危険があるので、無理に火を消そうとしないこと。
- 揺れがおさまったら、落ちついて火の始末。「火を消せ！」と周知することも大事。
- 台所には食器棚や冷蔵庫など、危険がいっぱい。なるべく早く台所から離れる。



寝ているとき

- 布団やまくらで頭部を守る。
- 家具が倒れてこないところに身を伏せる。
- 暗やみでは、室内の様子を把握しにくくなるので、ふだんからまくら元には携帯電話、懐中電灯、携帯ラジオを備えておく。



お風呂場やトイレにいるとき

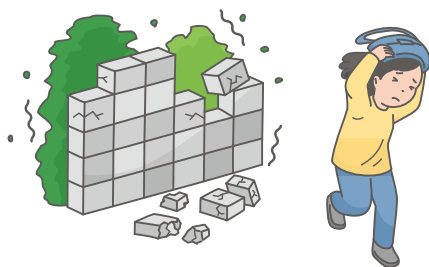
- お風呂場やトイレは、比較的 안전한場所といわれている。あわてて外に飛び出さない。
- 入浴中の場合、湯船の中で様子を見る。タイルなどの落下物に注意。
- トイレでは、ドアを開け、様子を見る。



屋外にいるときは

歩いているとき

- 建物からの落下物に注意。かばんなどを持っていたら、頭部を保護する。
- 狭い路地やブロック塀、川べりには近づかない。
- 橋や歩道橋の上にいるときは、手すりや柵にしっかりとつかまり、振り落とされないようにする。また、橋は倒壊のおそれがあるので、揺れがおさまったら即座にその場を離れること。
- 切れた電線には、決して触らないこと。



車を運転しているとき

- 徐々に速度を落とし、道路の左側に寄せてエンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで車外に出ず、ラジオなどで情報を聞く。
- 車外に出るときは、ロックせずに鍵はなるべく付けたままにする。
- 車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難をする。



原則として、避難に車は使用しないでください。

高齢者や重傷者など歩行困難な方を伴った避難など、どうしても車を使わなければならない場合以外は、

歩いて避難しましょう。

とっさの状況判断が、生死を左右します。

3 災害の状況に応じて的確に避難

地震発生後は、建物の倒壊、火災、土砂崩れなどの災害が発生する可能性があります。
テレビ、ラジオなどの情報や、周囲の様子を確認して、そのときの状況に応じた安全な場所へ的確に避難するように心がけましょう。

まずは近所の空き地・公園へ

地震発生直後は、近くの公園、広場などで、災害の様子を見ます。



火災時は指定緊急避難場所へ

地震による火災が多発し延焼拡大した場合、熱や煙から生命・身体を守るため、指定緊急避難場所に避難します。



自宅に戻れないなら指定避難所へ

災害の状況が落ち着いた後、家屋の倒壊などで自宅に戻れない場合は、被害のおそれの少ない指定避難所へ避難します。

職場などで地震にあったら、あわてて帰宅しようとしな

まずは、家族の安否確認を



災害用伝言板
web171

情報を収集して、 帰宅できるかどうかの 判断を



- 帰宅できない場合は、職場にとどまるか、最寄りの避難所へ
- 徒歩での帰宅は、幹線道路を利用
(主要なガソリンスタンドやコンビニなどでは、帰宅困難者に対する支援(水道・トイレの利用など)を行っています。)

減災

～リスクを限りなくゼロに近づけるために～

私たちは、災害による危険度（リスク）をゼロにすることはできませんが、小さな積み重ねで、ゼロに近づけることはできます。

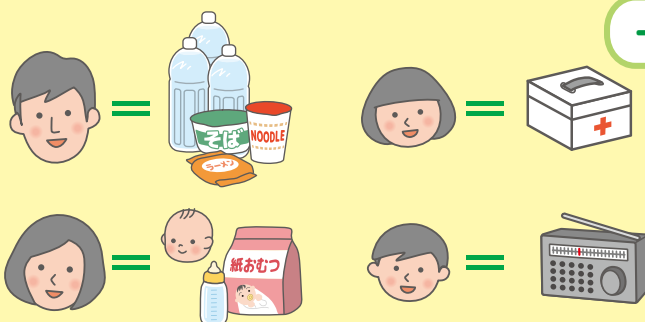
家族への連絡手段や避難先をチェック！

→裏表紙参照

- 家族が離ればなれになったときの連絡方法について確認しておきましょう。
- 最寄りの指定避難所及び指定緊急避難場所を確認し、そこまでの経路に危険な場所がないか、実際に現地を歩いて確かめておきましょう。



一人ひとりの役割分担をチェック！



- 火の元担当、非常持ち出し品の分担など役割を決めておきましょう。非常時だけの担当ではなく、日常生活の中で、就寝前の火の元確認、災害用備蓄品の確認を習慣づけましょう。
- 高齢者や乳幼児がいる場合には、介助者や保護者を決めておきましょう。ご近所の協力も得られるとさらに安心です。

4 緊急地震速報とは？

緊急地震速報は、最大震度5弱以上と推定された地震の際、強い揺れ（震度4以上）が予想される地域に、お知らせする情報です。

- テレビやラジオ、携帯電話などで伝えられます。
- 地震による強い揺れが始まる数秒～数十秒前に伝えられます。
(ただし、震源に近い地域では、緊急地震速報の伝達が間に合わないことがあります。)



緊急地震速報を見聞きしたときは…

あわてずに、まず身の安全を確保することが大切です！

家庭では

頭部を保護し、丈夫な机の下などに隠れる。
あわてて外に飛び出さない。



自動車運転中は

あわててブレーキをかけない。
ハザードランプを点灯し、
ゆっくり停止する。



エレベーターでは

最寄りの階で停止させ、
すぐに降りる。



1 火災発生！そのときあなたは？

！
早く
知らせる

- ① 「火事だーッ」と大声で叫ぶ！！
- ② 小さな火だと思っても、1人でまたは家族だけで消そうとしないことが大切。
- ③ 動転して声が出なかったら、やかんやなべなどをたたいて、近所の人たちの助けを求める。



119番

〇〇町
〇〇丁目
〇〇番地

いざというときに備えて
自宅の電話のそばに
119番通報メモを
はっておきましょう。

通報するときは
あわてず正確に
住所と名前を伝えましょう。

！ 119番通報のポイント

携帯電話から119番通報をした場合、発信した場所の地域を担当している消防本部につながります。
(電波の状態によります)

伝えていただく内容・順番・ポイントは次のとおりです。

(1) 災害の種類（119番消防です。火事ですか？救急ですか？）

- ・「火事です」「救急です」

(2) 災害の発生場所（まず、場所はどこですか？）

- ・市町村名、町丁名、番地、建物の名称をはっきりと
「〇〇町〇〇丁目〇〇番地〇〇アパート 〇〇号室 〇〇宅です。」
- ・具体的な住所がわからない場合は、付近の目標物を
「〇〇ビルの南です。」「〇〇という信号交差点の前です。」

(3) 災害の状況（何がありましたか？どうされましたか？）

- ・具体的にはっきりと、できる限りの情報を伝えてください。

(4) 通報者の連絡先

- ・あなたの名前と、現在使用している電話番号を教えてください。



どちらも大丈夫！



火事です！
場所は・・・

あわてずに落ち着いて
通報しましょう。

！
早く
消す

火の小さいうちに、
勇気をもって
初期消火に当たる。



- ① 消火は出火から3分以内が勝負。炎を恐れず勇気を出して、落ち着いて初期消火をする。
- ② 初期消火とは、火が天井面に移る前に消火することです。(消火器は下から、水バケツは上から消火する。)
- ③ 消火に使うものは消火器や水だけではなく、身近なものを何でも活用して、素早い対応を行う。

！
早く
逃げる



- ① 天井に火が燃え移ったら、個人での消火は難しい。無理をせず、早めに避難する。



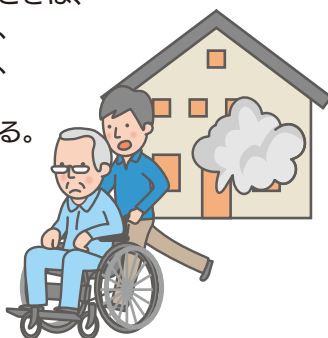
- ② 避難するときは、できるだけ燃えているところの窓やドアを閉める。

2 避難のためのポイント



1. 天井に火が燃え移ったら避難する。

2. 避難のときは、高齢者、子ども、病人を優先する。



3. 服装や持ち物にこだわらず、とにかく早く避難する。



4. 煙の中を通るときは、姿勢をできるだけ低くする。



5. 一度逃げ出したら、絶対中に戻らない。



6. 逃げ遅れた人がいたら、近くの消防隊員にすぐに知らせる。

i 「通電火災」とは？

地震などによる停電が復旧した際に発生する火災を「通電火災」といいます。破損した電化製品や電気コードなどに電気が通うことによって、出火することがありますので、避難の際には、必ず家のブレーカーを切ってください。



1 台風と集中豪雨

台風の 大きさと 強さ

● 台風の大きさ

階 級	風速 15m/秒以上の半径
大型（大きい）	500km以上800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上

● 台風の強さ

階 級	中心付近の最大風速
強い	秒速33m以上44m未満
非常に強い	秒速44m以上54m未満
猛烈な	秒速54m以上

大型で強い 台風とは？

台風の大きさは「風速15m/秒以上の半径」、強さは「最大風速」で表します。大きな台風ほど広い範囲に影響が及び、強い台風では強風によって中心付近が大きな影響を受けます。

雨の 降り方

気象情報では、よく「1時間雨量○mm」、「風速○m」という表現が出てきます。そのときの雨や風の強さが具体的にはどのようなものなのか、イメージしてみましょう。（以下は、いずれも気象庁資料を参考にして作成）

風の 吹き方

● 雨の強さと降り方

1時間雨量（mm）	雨の強さ	人への影響・屋外の様子
10以上～20未満	やや強い雨	雨の音で話し声がよく聞き取れない。
20以上～30未満	強い雨	ワイパーを速くしても見づらい。 傘をさしていてもぬれる。
30以上～50未満	激しい雨	道路が川のようなになる。 高速走行時、ブレーキが効かなくなる。
50以上～80未満	非常に激しい雨	あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 車の運転は危険。
80以上～	猛烈な雨	

● 風の強さと吹き方

平均風速（m/秒）	風の強さ	人への影響・屋外の様子
10以上～15未満	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。
15以上～20未満	強い風	風に向かって歩けない。 転倒する人もいる。
20以上～25未満	非常に強い風	何かにつかまらなると立てない。 屋根瓦・屋根葺材が剥がれ始める。
25以上～	猛烈な風	細い木の幹が折れ、倒れ始める。 看板が落下・飛散する。 屋外での行動は極めて危険。

（注）「雨の強さと降り方」「風の強さと吹き方」は、気象庁作成の解説表より作成。被害状況などは、地形などの違いによって異なることがあります。

2 気象状況に注意し、早めの対応を

雨や風などの気象条件は、刻々と変化していきます。
正しい情報に基づき、家族や地域が力を合わせて対応しましょう。



災害から身を守るための情報

気象庁は、風水害や土砂災害を防止・軽減するために、大雨警報などの防災気象情報を発表し、注意や警戒を呼びかけています。これらの情報のうち、特に注意が必要なものについては、町の防災無線などでも住民の皆さんにお知らせします。

大雨が予想された場合、災害が起きる前に何をすべきか、レベルに応じた取るべき行動をチェックしましょう。



「防災気象情報」の5段階警戒レベル



時間推移のイメージ

数日～
1日前

レベル1 早期注意情報 ・災害への心構えを一段高める。

半日～
数時間前

レベル2 注意報 ・ハザードマップなどで災害リスクを再確認する。
・自治体から発表される避難情報の把握手段を再確認する。

数時間～
3時間前

レベル3 警報 ・避難に時間がかかる **高齢者などは危険な場所から避難する。**
・高齢者以外の人も、必要に応じて避難の準備や自主避難する。

2時間～
0時間前

レベル4 危険警報 ・**危険な場所から全員避難する。**
※台風などにより暴風が予想される場合は、
暴風が吹き始める前に避難を完了する。

災害
発生

レベル5 特別警報 ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。
・今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動する。

「レベル3警報」や「レベル4危険警報」が発表されたら、町が避難指示を発令する可能性があります。町が出す情報に注意してください。

レベル5特別警報が発表されたら直ちに命を守る行動を

「レベル5特別警報」は、防災気象情報の発表基準をはるかに超える豪雨などが予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合において、最大限の警戒を呼びかける情報です。「レベル5特別警報」が発表された場合、お住まいの地域は数十年に一度の非常に危険な状況にあります。**直ちに安全な場所に避難するなど、命を守る行動をとってください。**



大雨時の外出は控えましょう

台風時など大雨が降っているときに、田畑や河川・水路の様子を見に外出した方が洪水に巻き込まれ、命を落とすという痛ましい事故が多発しています。

ふだん歩き慣れた道や場所でも、大雨時は予期せぬ災害に巻き込まれるおそれがありますので、緊急性がなければ外出を控えましょう。



地震に備えて

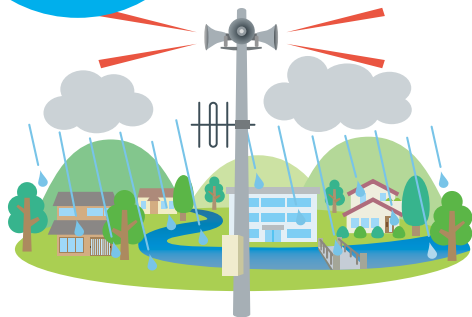
火災に備えて

風水害に備えて

原子力災害に備えて

自助・共助

！ 大雨が 降り出したら



地域の防災情報を確認し、近くの川の水位上昇にも注意しましょう。



はやく避難
しましょう

がけ地や河川の近くでは、近所で声をかけ合い、早めに避難の準備をしましょう。



地域の水防活動に協力しましょう。

！ 洪水の ときの 避難方法

直角方向に！
高い場所に！

川の流れ・土石流に対し直角に逃げましょう

- 近くに川が流れている場合、川が決壊したときに濁流に巻き込まれるおそれがあります。洪水や土石流が発生する前に逃げるのが基本ですが、万が一遭遇した場合には、濁流や土砂の流れる方向に対して直角に、少しでも高い場所へ逃げましょう。



時間がない場合は垂直避難を



- 災害時、身に危険が迫っているが、安全な場所まで避難する時間がない場合に、建物内のより高い場所に向かって避難することを「垂直避難」といいます。屋内にとどまっていた方が安全な場合など、やむを得ないときは、屋内の2階以上の場所、斜面と反対側の部屋に避難しましょう。

むやみに歩かない

- 浸水した道路は、水面下が見えず多くの危険が潜んでいます。段差に足をとられて転倒したり、誤って水路に転落したりするおそれがあります。避難するときは、浸水している道路は避けて通行するようにしてください。また、浸水が始まる前に早めに避難することを心がけてください。



3 土砂災害に気をつけよう

土砂災害警戒区域が指定されています

揖斐川町内には、令和7年12月現在、849箇所の土砂災害警戒区域（うち782箇所は土砂災害特別警戒区域）が指定されています。

大雨による土砂災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。危険が迫っているときは、危ない場所には近づかず、早めの避難を心がけてください。

なお、町内の土砂災害警戒区域・特別警戒区域については、町ホームページの「揖斐川町防災ハザードマップ」にてご確認ください。



土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域とは

土砂災害警戒区域「イエローゾーン」

〈土砂災害により住民に危害が生じるおそれがある区域〉



土砂災害特別警戒区域「レッドゾーン」

〈土砂災害警戒区域のうち建築物に損壊が生じ住民に著しい危害が生じるおそれがある区域〉



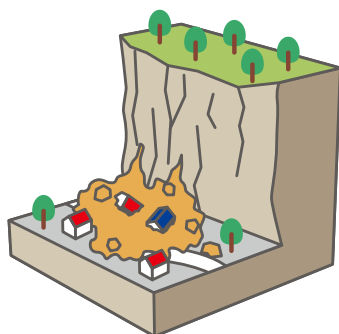
土砂災害の種類と前ぶれ

崖崩れ

地中に水分がしみ込み、土の抵抗力を弱め、急激に斜面が崩れ落ちる現象。突発的かつ急速に起こることが多いのが特徴。

〔前ぶれ〕

- 小石がバラバラと落ちてくる。
- 崖から水が湧いてくる。
- 崖にひび割れができる。



土石流

土石と水が一体となって流れ落ちる現象。昔から「山津波」や「鉄砲水」といっておそれられている。

〔前ぶれ〕

- 山鳴りや立木の裂けるような音、ふだん聞きなれない大きな音がする。
- 雨が降り続けているのに、川の水が急に減り始める。
- 川の水が濁ったり、流木が流れたりしてくる。

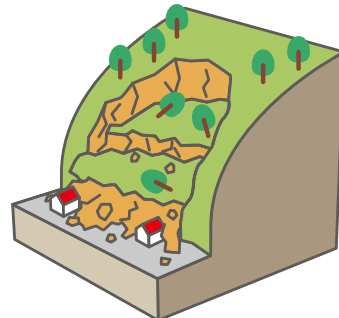


地すべり

ゆるいかたむきの斜面が広い範囲にわたって、すべり落ちていく現象。

〔前ぶれ〕

- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没する。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 崖や斜面から水が噴き出す。



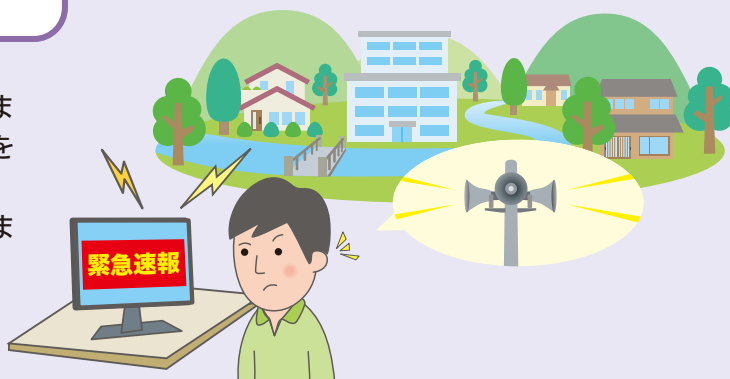
土砂災害は、大雨のときだけでなく、雨がやんでからも発生する可能性があるので、油断しないようにしましょう。

1 原子力災害から身を守る

原子力災害とは、原子力施設から大量の放射性物質が放出され、周辺の人や環境に影響を及ぼす災害です。原子力災害から身を守るため、放射性物質や被ばくなどについて正しい知識・対処法を身につけましょう。

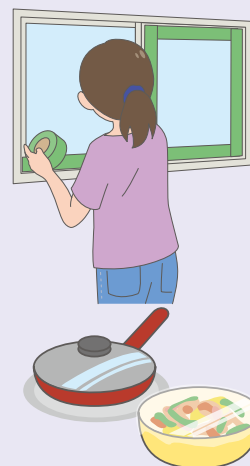
正しい情報を入手しましょう

- テレビやラジオから正確な情報を入手しましょう。町は、防災無線などで災害情報をお知らせします。
- うわさやデマに振り回されないようにしましょう。



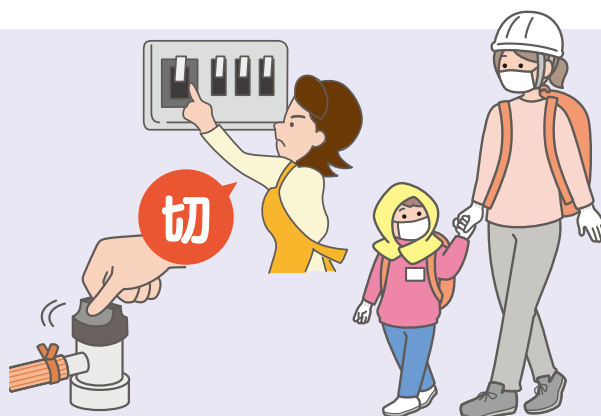
屋内退避の指示が出たら…

- 屋外にいるときに屋内退避の指示が出た場合は、すぐにマスクを着用し（持参していない場合はハンカチでも可。水でぬらして口と鼻を覆う）、速やかに屋内に移動しましょう。
- 髪などをよく払ったうえで屋内に入り、すぐに顔や手を洗い、うがいをしましょう。
- 換気扇やエアコンを止め、全ての窓やドアを閉めましょう。サッシ部や排気口部にガムテープなどを貼り密閉するとさらに効果的です。
- 外出先で着た服はビニール袋に入れ、しっかり口を閉めましょう。
- 食品が入った容器はふたをし、またはラップをかけましょう。



避難の指示が出たら…

- 対象地区、集合場所やその時間など、指示の内容をよく確認しましょう。
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切りましょう。戸締りも忘れずに。
- 帽子や上着、マスクなどを着用し、肌の露出をできる限り避けましょう。



1 日頃の備え

● 月に1度は家庭で話し合いを

防災意識を高めるため家庭で話し合いをしましょう。定期的な話し合いの積み重ねで、いざというときには適切な行動がとれるようになります。

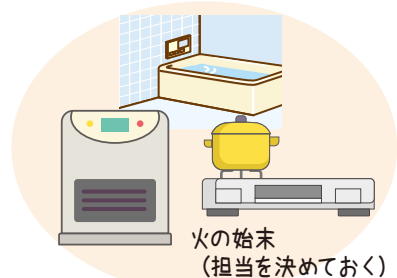
また、地域ごとに話し合うことができれば一層心強いですね。



非常時の家族同士の連絡方法を決めておく



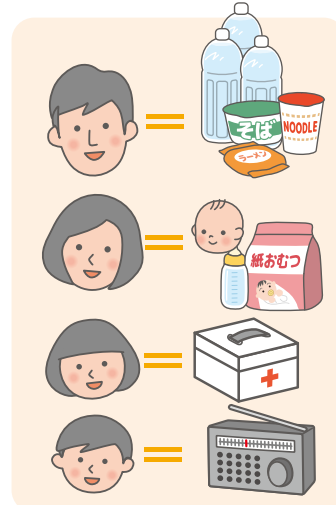
家の中の安全な場所を確認しておく



火の始末
(担当を決めておく)



集合場所を決めておく



非常持ち出し品の分担を決めておく

※これらすべてを家族全員で話し合い、万一の災害に備えたいものです。

● 地域ぐるみで防災対策を

大災害が発生したとき、通信手段の混乱や交通網の寸断などにより、公的支援がすぐに届かない可能性があります。

そのため、住民同士で助け合う共助の体制づくりが重要です。いざというときに一人ひとりがバラバラの行動をとっていたのでは、せっかくの活動も十分な力を発揮することはできません。

「みんなの地域はみんなで守る」という自主防災の心構えを持ち、日頃から地域活動に参加しましょう。

- ◆自主防災組織をつくる
- ◆防災リーダーを育てる
- ◆消火方法を身につける
- ◆応急救護方法を身につける

i 自主防災組織とは

自主防災組織とは、地域の人々が自発的に防災活動を行うための組織をいいます。災害時の避難所の管理・運営などのほか、その後の復興にも大きな力を発揮します。

揖斐川町では、自主防災組織の地域防災力強化のための補助や防災士資格取得支援などを実施し、地域の自主防災組織づくりを推進します。



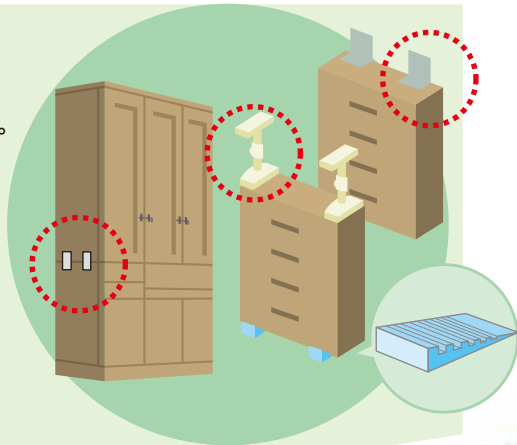
2 わが家の安全チェック

家の中の地震対策は、手軽にできます。

まず第一に家具の転倒や落下を防ぐこと、そして逃げ場になる安全な空間をつくっておくことがポイントです。

家具

- 金具の利用
背の高い家具は、L型金具で固定します。
2段・3段重ねの家具は、特に倒れやすいので、平型金具で連結します。
- 転倒防止器具の利用
天井との間につっぱり棒をつけましょう。また、下に転倒防止板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定します。
- 家具の上
ガラスケースなどの割れやすいものは家具の上に置かないようにしましょう。



窓

逃げ道を確保するとき、すぐに開けられるようにしておきましょう。

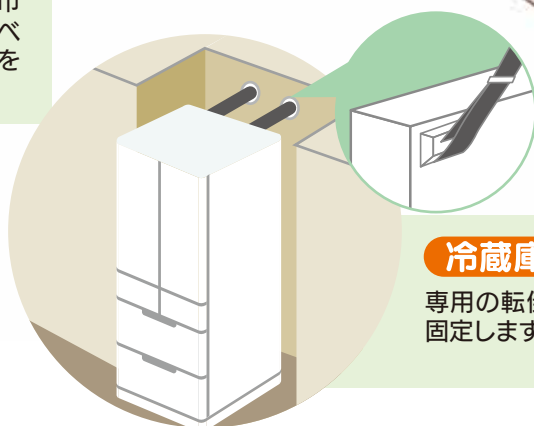
バルコニーやベランダ

手すりの上に植木鉢などを置かないようにしましょう。



テレビ

テレビは家具の上など、低い位置に置きましょう。また、市販の耐震粘着マットや固定ベルトを利用して転倒や落下を防ぎましょう。



冷蔵庫

専用の転倒防止用ベルトで固定します。

台所

コンロなど火元の近くに、燃えやすいものを置かないようにしましょう。



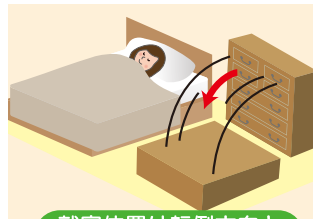
こんなことに注意して！

家の中に逃げ場となる安全なスペースがありますか。

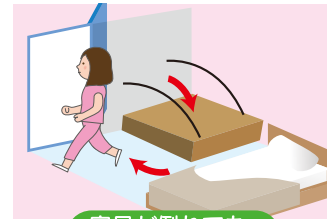
部屋がいくつもある場合は、あまり使われていない部屋に家具をまとめ、日常的に使う部屋には広く安全な空間を確保しておきましょう。

就寝場所や避難経路を考えていますか。

寝室や出入り口付近で家具の固定ができない場合には…



就寝位置は転倒方向と重ならないように



家具が倒れてもドアが開くように

高齢者や子どもが逃げ遅れないように考えていますか。

就寝中に地震が起きると、高齢者や子ども、病人などは逃げ遅れる危険性が高まります。なるべく避難しやすい部屋に移り、背の高い家具などは置かないようにしましょう。

つり棚

重いものは下の棚に移し、落ちて大丈夫なものだけにしましょう。

ピアノ

専用の転倒防止金具や滑り止めをつけておきましょう。

額縁

ガラス面に飛散防止フィルムを貼っておくと安心です。

照明器具

つり下げるタイプのものは、チェーンなどで天井に固定しましょう。

寝室

高齢者や子ども、病人のいる寝室には、なるべく背の高い家具を置かないようにしましょう。

玄関周り

玄関や縁側など外への避難経路になるところは、家具や物を置かないようにして、スペースを確保しておきましょう。

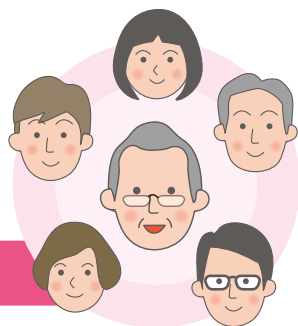
食器棚

ガラスが割れ、中のものが飛び出してきました。L字金具で壁に固定し、開き戸には止め金具をつけましょう。ガラス面には飛散防止フィルムを貼っておくと安心です。また、棚の中には滑り止めシートを敷きます。



3 要配慮者を守るために

年齢や障がい、言葉の壁などによって、災害発生時の対応に何らかの手助けが必要な人を要配慮者といいます。近年の災害では、特に高齢者の深刻な被害が多く、大きな社会問題となっています。要配慮者を守るために、地域が一丸となって取り組んでいきましょう。



● 要配慮者が安心して暮らせる環境づくり

要配慮者の立場をふまえた防災対策を

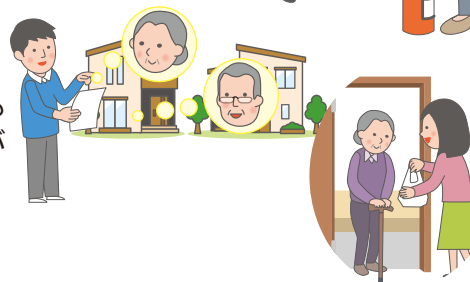
要配慮者の人たちに対して、情報伝達の際にはどうしたら情報が正確に伝わるのか、避難誘導などを行う際にはどんな支障があるのかなど、要配慮者の立場に立って考え、防災環境や防災体制を改善していきましょう。

そのためには、要配慮者の方にも積極的に防災訓練に参加していただくことが大切です。



日頃から地域でのコミュニケーションを

日常の支援活動こそが、要配慮者への配慮につながる防災対策そのものといってもいいでしょう。日頃からコミュニケーションを図り、プライバシーや個人情報に配慮しつつ、地域ぐるみでの支援体制を整えましょう。



家庭の中での習慣づけを

家庭内のちょっとしたことで、要配慮者に合わせた防災対策はできるものです。また、近所の協力は不可欠ですから、普段のつき合いの中で相互理解を深めましょう。

いざというとき、すぐに避難・救助できるように1階の玄関付近に部屋を移す。



家にひとりだけ残して出かけるときは、近所にひと声かけて。



家の中の段差をなるべくなくす。

● 要配慮者を避難誘導する際のポイント

非常時には、身体・言語に不自由のある人ほど、状況の変化に対してより大きな不安を感じやすくなります。そんなときこそ、思いやりの心で接し、その人の立場に立った支援を心がけましょう。

高齢者・傷病者



- ・複数の人で対応。
- ・緊急時には、背負ったり、担架を使ったりする。

目が不自由な人



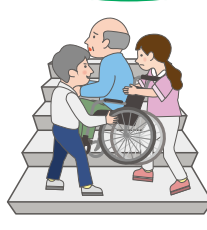
- ・杖を持つ手と反対側の肘のあたりに軽く触れ、ゆっくりと誘導。
- ・誘導先の障害物や道路状況などを説明しながら進む。

耳が不自由な人



- ・口を大きく動かし、はっきり、ゆっくり話す。
- ・筆談などで伝える。

車いすの人



- ・階段では2人以上で支援を。上りは前向き、下りは後向きで。
- ・救援者が1人しかないときは、背負う。

外国人



- ・まずは身ぶり手ぶりで意思の疎通を図る。
- ・外国語が分からないからといって、逃げてしまわないこと。孤立させないことが大切。

4 非常時に役に立つもの

災害時に備えて準備しておくものは、家族構成を考えて必要数をそろえ、保管しておきましょう。また、非常持ち出し品は、リュックサックなどの非常持ち出し袋に入れて保管し、災害用備蓄品とは分けておきましょう。



最低限準備しておくべきもの（非常持ち出し品）

●懐中電灯

予備電池・電球もあわせて準備。



●携帯ラジオ

AM・FM両方を聴けるものを用意。予備電池も多めに準備。



●救急医薬品

消毒薬、包帯、絆創膏、かぜ薬、解熱剤、胃腸薬など。常備薬があれば、必ず準備。



●非常食及び飲料水

調理の不要な缶詰、乾パンなど、3日分を用意。水はペットボトルで準備を。



●現金・貴重品

現金には、公衆電話の活用を考慮して、10円硬貨も入れておくこと。貴重品は、預金通帳、マイナンバーカード、免許証や印鑑など。



●ヘルメット・軍手・タオル・着替え（上着・下着）

着替えの衣類は、長袖・長ズボンを用意。



●その他

モバイルバッテリー、ライター、ナイフ、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、ウェットティッシュ、ビニールシート、生理用品など。乳幼児や高齢者がいる家族は、ほ乳瓶、粉ミルク、紙おむつなども忘れずに。



●携帯トイレ

1人1日当たり5回分を目安に、3日分の備蓄を。

断水時における携帯トイレ（袋式）の使い方

- ①便座を上げて、便器に携帯トイレを取りつける。
- ②便座を下ろし、携帯トイレを固定する。
- ③吸水シートや凝固剤で、排泄物を固める。空気を抜いて口を結ぶ。



被災後の生活のために準備しておきたいもの（災害用備蓄品）

●食料

缶詰、レトルト食品、カップ麺、栄養補助食品など。非常食3日分を含め、7日分を目安に確保しておく。



●水

1人1日当たり3リットルを目安に、3日分の備蓄を。ペットボトル、ポリタンクへの汲み水のほか、風呂桶への貯水を習慣づけることも大切。



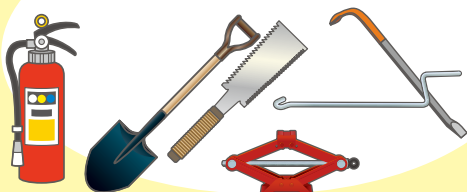
●カセットコンロなど

予備ボンベも忘れずに。野外バーベキュー用品（木炭・固形燃料）もあわせて備蓄も便利。



●消火・救助用品

消火器、のこぎり、スコップ、バール、車のジャッキなど。



●その他

- ・ホイッスル
- ・予備の眼鏡・補聴器
- ・ビニールシート
- ・ビニールラップ
- ・新聞紙
- ・携帯トイレ
- ・使い捨てカイロ
- ・厚底スリッパ
- ・液体ハミガキ
- ・ドライシャンプー
- ・裁縫セット
- ・ガムテープ
- ・地図
- ・さらし
- ・筆記用具（マジックなど）など

※大規模災害の発生直後は、ライフラインの損壊などにより、救援物資がすぐには届かないことも考えられます。発災から最低3日分、可能な限り7日分の非常食及び飲料水を準備しておく必要があります。



もしもの時の防災メモ

●わが家の住所 (〒)

住所

TEL

●家族の情報

氏 名	生 年 月 日	血 液 型	緊 急 連 絡 先	避 難 場 所
	・ ・	型 R H + -	☎	
	・ ・	型 R H + -	☎	
	・ ・	型 R H + -	☎	
	・ ・	型 R H + -	☎	
	・ ・	型 R H + -	☎	
	・ ・	型 R H + -	☎	

●親戚・知人の連絡先

氏 名	連 絡 先	住 所	メ モ
	☎		
	☎		
	☎		
	☎		

覚えておきましょう! 災害時の連絡方法

携帯電話「災害用伝言板」

災害時は携帯電話各社の公式サイト
のトップ画面に「災害用伝言板」の案内が
表示され、自らの安否状態を登録する
ことが可能になります。

登録された伝言については、インター
ネット接続が可能なパソコンや他社の携
帯・PHSからも下記のURLで確認でき
ます。(スマートフォンでのご利用につ
いては、各社のサイトにてご確認ください。)

NTTドコモ

<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>

KDDI (au)

<http://dengon.ezweb.ne.jp/>

ソフトバンク/ワイモバイル

<http://dengon.softbank.ne.jp/>

楽天モバイル

<https://public-safety.mobile.rakuten.co.jp/>

災害用伝言ダイヤル「171」

NTTでは、震度6弱以上の地震発生時など、被災地への安
否確認電話が集中する場合に「災害用伝言ダイヤル」サービス
を開始します。

災害用伝言ダイヤルの開設、登録できる電話番号などは、災
害後、NTTが決定しテレビやラジオ放送でお知らせしますの
で、「171」をダイヤルし、利用ガイダンスに従って伝言の録
音・再生を行ってください。

伝言の録音方法

1 7 1 にダイヤルする

▼ガイダンスが流れます

録音の場合 **1**

▼ガイダンスが流れます

(X X X) X X X - X X X X

NTT西日本

<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/>

伝言の再生方法

1 7 1 にダイヤルする

▼ガイダンスが流れます

再生の場合 **2**

▼ガイダンスが流れます

(X X X) X X X - X X X X